

【書評・紹介】

重要文化財指定記念 長久保赤水著 改正日本輿地路程全図 第2版 寛政3年(1791) 着色試作品

編集・発行 高萩市・高萩市教育委員会

831 × 128.6mm

2020年12月発行 1000円



図1 改正日本輿地路程全図 第2版 寛政3年(1791) (左)
改正日本輿地路程全図袋 (右)

茨城県高萩市の郷土の先人である長久保赤水（1717～1801）が遺した関係資料693点が、令和2年9月30日に国の重要文化財の指定を受けた。

長久保赤水是、茨城県高萩市の農家に生まれ、師や仲間たちと学問に励み、61歳の時に水戸藩6代藩主、徳川治保の侍講（先生）となった。

ところがその次の年には、農民が苦しんでいた年貢の取り立て方を変えるように藩主に意見書（農民疾苦）を上書して、農民の暮らしを守った。

また、自分が学んだことを他の人に伝えるために、紀行文や漢詩、天文書などの書籍や中国地図や世界地図、中国歴史地図帳、蝦夷之図などを刊行した。

中でも長い年月をかけて完成させた日本地図などは、多くの情報が盛り込まれ、当時としてはかなり正確で使いやすいものであったため、1801年に赤水が亡くなった後も版を重ね、ベストセラーとして国内外の人たちに愛用された。

しかし、高萩市に残る赤水が日本地図作成に使用した資料は、虫損などによる欠失、破れ、経年に伴う汚れ、彩色の剥離・剥落などが散見される状態であり、早急な修理が必要である。同時に、国民の財産となったこれら貴重な資料群の幅広い今後の活用と公開、さ

らには、デジタルデータを活用した更なる研究の推進が求められている。

このたび、重要文化財指定を記念して高萩市では赤水図「改正日本輿地路程全図」第2版の原寸大レプリカを3000部作成した（図1）。

この地図は、長久保赤水が75歳の時、地図作成の集大成として完成させた日本地図である。初版（安永版）と大きく異なる点は、海路が描かれている点、地名情報（郡分図、汐路に関する記述）が非常に豊富になっている点などが挙げられる。

また、赤水是初版と第2版について何度も考証・改定を重ねており、地図の正確性を追求する赤水の熱意を感じ取ることができる。

ちなみに、海田（2007）によれば、初版が13刷り、第2版が4刷り確認されているという。

今回の原寸大レプリカは、第2版の1刷りにあたり、長久保家に代々伝わってきた着色試作品とされている日本地図である。

文献

海田俊一 2007, 改正日本輿地路程全図（赤水図）の改版過程について、「地図」Vol.55, No.3, 10-17

（佐川春久）

（受理2021年3月29日）

*お知らせ

高萩市では、当該資料群の修理・活用に向け「クラウドファンディング型ふるさと納税」（2021年4月1日～6月30日の91日間・目標額310万円）を活用した資金調達を実施している。

このほか、高萩市では市内の5か所の歩道に「赤水図」をデザインしたマンホールを設置。令和3年4月には、「赤水図」マンホールカードを発行。さらに、狂言師の和泉元彌さんがナビゲーターと主演を演じたスーパームービー「その先を往け！日本地図の先駆者 長久保赤水」が5月の試写会を経て完成する予定。また、長久保赤水顕彰会では、「学ぼう赤水を教科書の載せて広げよう世界へ！」を合言葉に赤水の功績の普及に努めている。

*問合せ先 高萩市教育委員会生涯学習課

〒318-8511 茨城県高萩市本町1-100-1

電話番号 0293-23-1132 FAX 0293-23-1126

Eメール shougai@city.takahagi.lg.jp

【寄付ページURL】<https://www.furusato-tax.jp/gcf/1167>